

平成 23 年度第 1 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会議事録

- 日 時：平成 23 年 5 月 25 日（水）18：30～21：15
- 場 所：市役所西棟 4 階 412 会議室
- 出席委員：7 名（欠席 1 名）
- 事務局：高齢者支援課、保育課、市民社会福祉協議会

1 開会

2 配付資料確認

事務局より事前配付資料と当日配付資料の説明

3 議事

（1）平成 22 年度運営実績の評価

【事務局】 高齢者支援課からは資料 1 について説明いたします。そ～らの家について、補助金交付額が 9,900,000 円であったことに対し、精算額が 50,000 円、補助金確定額が 9,850,000 円となっています。これは、入浴事業の日数が見込みを下回ったことによる補助金返還額が生じたためです。また、きんもくせいについて、補助金交付額が 9,900,000 円であったことに対し、精算額が 200,000 円、補助金確定額が 9,700,000 円となっています。これは、在宅介護支援センター等との情報交換会未実施による補助金返還額が生じたためです。花時計について、補助金交付額が 10,000,000 円であったことに対し、精算額が 31,964 円、補助金確定額が 9,968,036 円となっています。これは、繰越金が 1,000,000 円を超えた場合、超過額は市へ返還することとされており、繰越金超過額を返還したために生じたものです。

なお、花時計とくるみの木については、22 年度単年度収支が黒字となっています。

市民社会福祉協議会からは平成 22 年度の運営支援についてご報告いたします。市民社会福祉協議会ではテンミリオンハウスの起業・運営支援として、現在 2 名の職員を配置し、7 施設の対応をしています。各テンミリオンハウスのスタッフ会議等に参加し、市民社協とテンミリオンハウスの良好な関係を築いています。日々のスタッフからの質問等にも対応し、支援を実施しています。

スタッフ研修を例年2回実施していますが、平成22年度につきましては毎年実施している食中毒の予防、また、個人情報保護法について研修を実施しました。この中で各施設のプライバシーポリシー作成に関する対応も実施しました。

また、スタッフ相互の交流を実施し、7施設延べ24名が参加しました。

さらに、代表者会議を5月、10月、1月に実施し、個々の対応も含めた情報交換等を行った次第です。

その他、事業計画書、更には報告書作成支援、日常における運営等に対する相談対応を行っています。

保育課からはこどもテンミリオンハウスあおばについてご報告いたします。精算額について、338,400円の精算額が発生していますが、早朝夜間一時保育、緊急ショートステイ一時保育事業、それぞれが補助交付申請時の利用数から不足していたことによるものです。

こどもテンミリオンハウスにつきましては、3月の震災の影響で建物の壁に亀裂が入り、建物の安全性が確認されるまで1週間閉館しました。その間、一時保育の予約が入っている利用者につきましては、近隣の北町保育園で緊急にお預かりをし、あおばのスタッフも一緒に対応しました。

【事務局】 各運営団体からの実績報告に先立ち、概略的な説明をさせていただきましたが、ここからは各運営団体のヒアリングになりますので、議事を委員長へお願いいたします。

(2) 平成22年度運営実績ヒアリング

第1グループ（月見路、関三倶楽部、そ～らの家、きんもくせい）

【委員長】 それでは、第1グループのヒアリングを行いますので、まずは月見路から宜しく願いいたします。

【月見路】 平成22年度の特徴的な活動状況について説明いたします。1点目として、昨年7月より長野県の障害者施設と連携をして朝市を実施しています。計5回昨年度は実施しましたが、毎回30～60名程の参加をいただいています。地域の方がお求めに来られるので、その中で月見路を知っていただくこともあり、地域交流の役割を果たせたのではないかと思います。

2点目として、昨年6月より貸部屋を実施しています。月見路には2部屋ありますが、プログラムのメインとして1部屋使用しますので、もう1部屋空いている時があります。それを地域の方々に開放しようということでご案内し、

10月頃よりグループ麻雀の使用として18回、延べ72名が利用されました。また、老壮いきいきセミナー卒業生会員の会の幹事会として利用されました。

8月に第2回地域ふれあいコンサートを吉祥寺ホームの集会室で実施しました。このコンサートにも地域の方、吉祥寺ホームの方やご利用者、くるみの木のご利用者等が参加され、100名程の参加となりました。

【副委員長】 朝市について、引き続き実施することでお考えでしょうか。

【月見路】 今年度は既に4月に一度実施し、5月も実施予定です。現在のところ、隔月で実施する予定でいます。

【委員】 昼食について、利用者数の割に食数が少ないと感じていますが、1日平均何食出しているのでしょうか。

【月見路】 1日平均6～7食になります。

【委員】 昼食のみ利用される方はどのくらいいらっしゃいますか。

【月見路】 日によって変わりますが、2、3名おります。昼食のみ利用される方は大体決まっています。

【委員長】 新しく始められた貸部屋について、週に何回利用されていますでしょうか。

【月見路】 週1回はご利用いただいています。

【副委員長】 収支会計明細書の雑収入の中に、アイスクリームと記載がありますが、このことについてご説明願います。

【月見路】 食後等に100円で提供しています。冬場の利用は少ないですが、夏場は多くの利用者にお求めいただいています。

【委員】 東日本大震災の影響はいかがでしたでしょうか。

【月見路】 当日は編み物と歌の会のプログラムの日でしたが、スタッフの指で机の下に入る等対応しました。その後利用者は皆すぐに帰られました。

【委員長】 それでは、続いて関三倶楽部お願いします。

【関三倶楽部】 昨年度は10周年記念イベントを実施し、狭いスペースの中35名の方にご参加いただき、多くの方から祝福を受け本当に感謝しています。

昨年度も例年同様、心身状態によって他の施設で受け入れられない方の受入れや、早朝・夜間のデイサービス実施等24時間体制で受け入れています。心身状態によって受け入れられない方については、他の施設ではマンツーマンの対応ができないことに対し、関三倶楽部では付きっきりになることができることからご利用いただいています。

レッツトライは、地域の方達と一緒に認知症サポーター養成講座を実施し、桜堤ケアハウス在宅介護支援センターより講師を派遣いただき、勉強しました。

最近では、長く利用されていらっしゃる方で、認知症の進む方が多くなってきましたので、担当のケアマネジャー、ご家族の方と今後について相談しながら対応しています。ショートステイでは、本人の日常のことや夜間のことをご家族の方はご存じではないので、そのことをお伝えし、アドバイスをしています。

最近では、他の施設で断られた方の受入をケアマネジャーからお願いされることが増えています。関三倶楽部にも限りはございますが、可能な限り受け入れていきたいと思っています。

【副委員長】 ご家族の相談を受けるケースについて、どのくらいの件数を受けているのでしょうか。

【関三倶楽部】 ショートステイの申し込みを受けた時、事前にご家族の方に来ていただいて、お家でのことなど愚痴も含め相談される方が多いです。これに関しましては、相談される方やそうでない方もいますので、具体的な件数までは把握していませんが、長い方で1時間～1時間半相談されていきます。

【委員】 3月末時点の利用者登録者数 39 名いますが、ショートステイのご利用者は固定された方でしょうか。

【関三倶楽部】 リピーターが多く、その間に新規利用者が入っています。登録者 39 名の内、ショートステイ利用のリピーターは 15 名程かと思います。

【委員】 昼食は1日何食程出されていますか。

【関三倶楽部】 利用者が1人の時もあれば、5人の時もあります。

【委員】 昼食のみご利用される方もいらっしゃいますでしょうか。

【関三倶楽部】 ほとんどありません。

【委員】 東日本大震災が起きましたが、危機対応として避難訓練やマニュアル等、どのように対応されていますか。

【関三倶楽部】 消防署から年に1、2回、火災の避難訓練を実施しています。また、先日の震災発生時は2名の利用者がいましたが、お2人とも素早い動きはできないので、室内用の車椅子に座っていただき、すぐに出られる状況にしていました。なお、施設内では大きな被害はありませんでした。

【委員】 ご家族の方はすぐにお迎えに来られたのですか。

【関三倶楽部】 ご家族の方は来られませんでした。お二人の利用者には泊まっていただきました。

【委員長】 それでは、続いてそ～らの家をお願いします。

【そ～らの家】 そ～らの家も昨年 10 周年を迎えることができ、記念誌を発行いたしました。記念式典の際には、椅子が足りなかったため、第三小学校にお願いをして椅子を借りました。第三小学校とは常日頃から連携をとり、全国 1 位となった第三小学校の吹奏楽が、今年は高齢者を講堂にご招待して演奏をお聞かせしたいという要望を受けましたので、そ～らの家やゆとりえ、2つの老人クラブをご招待し、6月11日に実施することとなりました。

3月には大震災が発生しましたが、そ～らの家では昨年度消防第一分団の方や自主防災の方、利用者、スタッフ、地域の方にお声かけをし、炊き出しも含めた訓練を実施しました。実際にお部屋から防災広場まで誘導して出ることにより、予想以上に時間がかかりました。先日の大震災発生時は、スタッフの指示で利用者を机の下に避難させて、対応しました。

在宅介護支援センター、ケアマネジャー、事業者、ご家族の方と常に連携を取り、何かあれば情報交換を実施しています。

また、ムーバスがそ～らの家の前を停車することになり、利用者も安心しているところです。1時間に1本の本数ですが、通ったことに感謝しています。

昨年初めて誕生会を実施し、対象者からの一言インタビューで一番楽しかったこと・嬉しかったこと、大変だったことをお聞きし、それを聞くことによりスタッフも安心したり喜んだりすることができました。

【委員】 利用者数に比べ、食数が非常に多いと感じていますが、昼食のみ利用される方はどのくらいいらっしゃいますでしょうか。

【そ～らの家】 昼食だけご利用される男性の方が、毎日3、4名います。曜日によってそれが倍になることや、ご夫婦で来られる方もいます。平均すると5、6名かと思います。

【委員】 ムーバスが停車することによって利用者数が増えた等の効果はありましたでしょうか。

【そ～らの家】 運行されてまだ1ヶ月経っていませんので、特に効果はありませんが、吉祥寺南町5丁目の地域は高齢者が非常に多い地域ですので、雨の日はそ～らの家の前で5、6人バスを待っています。本来であれば1時間に2本くらい通って欲しいところですが、利用人数も増えていけばその可能性もあるかと思っています。

【委員】 ムーバスが通り始めたのは今年の4月からでしょうか。

【そ～らの家】 4月1日が予定日でしたが、震災の影響で5月9日より運行

が始まりました。

【委員】 ボランティアの人数が大変多いと感じていますが、1日平均どのくらいいらっしゃるのでしょうか。

【そ~らの家】 プログラムの講師はすべてボランティアとして来ていただいています。その他助手として来ていただく方もいらっしゃいますので、1日平均3、4名かと思います。

【委員】 ボランティアの方達は非常勤の方とは別でしょうか。

【そ~らの家】 非常勤スタッフではございません。

【副委員長】 在宅介護支援センター等との情報交換会が2月になって実施されていますが、趣旨からすると早めに且つ計画的に実施するものではないかと思しますので、このことについてご説明願います。

【そ~らの家】 行事が重なったことや、ゆとりえ在宅介護支援センターとの日程調整が思うようにできなかったこと、また、ご利用されている方の状態が重度になられたため緊急に情報交換をする必要があったことから、2月に立て続けに実施することになりました。

【委員】 施設も広いので電力の使用量も多いのではないかと思います。今夏の節電についてどのような対策をお考えですか。

【そ~らの家】 電気代については、太陽光発電による売電が一昨年よりも3倍程に上がり、電力使用量の多い11月、12月分の電気料金に充てられる程になっています。節電につきましては、窓も広いので、窓を開けてできるだけ風通しを良くし、節電に努めたいと思います。

【委員】 その他事業で「南町コミセン文化祭」「東部フェスティバル」「南町カーニバル」への参加が報告されていますが、具体的にどのような形で参加されているのでしょうか。

【そ~らの家】 南町カーニバルは20年行っており、昨年が最後となりましたが、そ~らの家としてはたこ焼き屋さんを実施し、PRも兼ねて参加しています。南町コミセン文化祭には、パネル展示をさせていただき、利用者の作品やプログラムの内容等を掲げさせていただいています。東部フェスティバルにも、作品等を展示させていただいています。

【委員】 テンミリオンハウスがある地域はテンミリオンハウスへの認知度が高いのですが、ない地域は認知度が非常に低いので、PRはぜひ続けていただきたいと思います。

【委員長】 それでは、第1グループ最後になりますが、きんもくせいお願い

します。

【きんもくせい】 平成 22 年度実績について、利用登録者数は 241 名、1 日平均利用者数が 20 名、実利用人数が毎月 130 名前後で推移しており、年間延べ利用者約 6,000 名、利用者平均年齢が 77 歳となりました。

20 程ある趣味と生きがいの講座をボランティアの協力によって実施していますが、昨年初めてボランティアの方達へのお礼の意味も含め、ボランティアとの食事会を実施しました。ボランティア同士の交流も図れたので、大変良い機会となりました。

昨年は光村図書出版から取材があり、今年度の春から使用する小学校 6 年生向けの教科書に、武蔵野市のテンミリオンハウス事業としてきんもくせいの写真が掲載されています。

昨年 2 月に発足したシニアネットむさしのに関わり、参加団体との関わりを持っていきたいと活動してきました。端緒的ではありますが、ある団体に 2 度程来ていただいたりしましたので、この活動をこれから更に広げていきたいと思えます。

また、昨年度も中高生の職場体験受入等を実施し、今年度も引き続き受け入れていく次第です。

【副委員長】 在宅介護支援センター等との情報交換会ですが、昨年度未実施だったことについてご説明願います。

【きんもくせい】 情報交換会が補助金算定との関わりやその趣旨について認識不足だったことが原因だと思います。市民社協からの指導も受け、今年度は 4 回程実施できるよう計画しています。

【委員】 2 点お伺いします。利用料について、今後もとる予定はないのでしょうか。また、利用者への PR はどのように行っているのでしょうか。

【きんもくせい】 利用料については、今のところ予定がありません。利用者への PR については、月 2 回刊行しているきんもくせい通信をコミセンや市政センター、市民会館、桜堤ケアハウス等に配布し、PR しています。今後はこのきんもくせい通信を病院等様々な場所に配置して、PR していきたいと考えています。

【委員】 その他の延べ利用者数が、8 月以降記載されておられません。このことについて説明願います。

【きんもくせい】 開所当時は 65 歳以上の方を対象にしておりましたが、できる限り多くの方に利用していただきたいという考えもあり、65 歳に満たない方

も数名利用されていましたが。この報告途中段階までは 65 歳に満たなかった方達も、昨年度 65 歳に到達したため 8 月以降記載がないものとなっています。

【委員】 利用者人数が多い割に食数が少ないと感じていますが、その理由についてご説明願います。また、昼食のみご利用になられる方はいらっしゃいますか。

【きんもくせい】 スペースの問題があり、最高で 14 食としています。但し、例年に比べ食数が減ってきているのは事実です。これは、書道の講座が無くなった関係で利用者が減ったことが原因と考えています。また、昼食のみの利用者は全体の内 10 名前後となります。

【委員】 災害発生時の危機管理や訓練等はどのように行われていますでしょうか。

【きんもくせい】 防災訓練は特別にやってきていませんが、いざ災害が発生した時の避難経路を事前にチェックしましたところ、障害物等を発見しましたので、それらを除去する等対応をとってきました。また、日々駐輪場の整理をすることで、いざという時の避難経路を確保しております。

その他として、椅子の上にある座布団の紐を椅子に縛り付けていましたが、紐を外した状態にしておき、いざという時に座布団を頭に被せて避難できるよう準備しています。

しかし、通常の訓練や消火器の扱い方等も今後は実施していく必要があると考えています。

【委員長】 ありがとうございます。以上で第 1 グループのヒアリングを終了いたします。

第 2 グループ（川路さんち、花時計、くるみの木、あおば）

【委員長】 それでは、第 2 グループのヒアリングを行いたいと思います。まずは、川路さんちからお願いいたします。

【川路さんち】 昨年度から書道の講座を開始しました。利用者からの要望も強かったため、講座が開始されてから熱心にご利用されています。

昼食会を 4、5 年前から 2 ヶ月に 1 回地域の方に向けて 20 名予約をとって実施しています。この昼食会には赤ちゃんを抱えた若い親子や家族連れの方、老夫婦、川路さんちがどのような所なのかと興味を抱いている方達等、多くの方にご参加いただいています。

例年実施しているひな祭りについて、昨年度は耐震工事を実施していた関係

で開催が危ぶまれましたが、西久保コミセンと共催で7段飾りのお雛様をコミセンと川路さんちで2つずつ飾り、無事実施することができました。両施設併せて約200名の方にお楽しみいただきました。

【副委員長】 昼食会について、参加された方は高齢者以外の方もいらっしゃるのでしょうか。また、その参加者数は実績報告書に反映されているのでしょうか。

【川路さんち】 地域の方を対象としていますので、高齢者以外の方にもご参加いただいております。また、実績報告書にはデイサービスの実績を報告しておりますので、昼食会の参加者数は含まれていません。

【委員】 土曜日に実施しているこの昼食会について、どのようにPRを行っているのでしょうか。また、普段の昼食について、昼食のみご利用される方は平均でどのくらいいらっしゃいますか。

【川路さんち】 PRは市民社協の広報誌ふれあいに載せていただいております。場合によっては市報に載せてPRしています。また、西久保1丁目町会の掲示板や西久保コミセンの掲示板、西久保2丁目、3丁目の商店街の掲示板を利用しています。昼食会は地域に定着していますので、掲示板を見ずともお問い合わせが来るようになっています。

また、普段昼食のみご利用される方は、ほとんどいません。川路さんちは昼食が中心であり、午前中に来られた方が昼食を召し上がり、そのまま午後の体操やおやつを召し上がり、お話や編み物等をしながら時間を過ごされています。

【委員】 昼食会を中心としたイベントの中で、お子さんの参加が多いと感じていますが、これは地域のお子さんでしょうか。或いは保育園・幼稚園のお子さん、または高齢者と一緒来られたお子さんなのではないでしょうか。

【川路さんち】 家族連れのお子さんが多いです。若いご夫婦が連れて来られる乳幼児や、小学生5、6年生までのお子さんが参加されます。

【委員】 ひなまつりにはどのような形でお子さんが参加されていますか。

【川路さんち】 ひなまつりでは高齢者の方が連れて来たお子さんや、若いお母さんが赤ちゃんを連れて来るなど様々でした。

【委員】 高齢者限定ではなく、地域に向けたひなまつりですので非常に良いことだと思います。今後も是非続けてください。

【委員】 3月の震災発生時の状況について、また施設の危機管理についてご説明願います。

【川路さんち】 震災発生前日に耐震工事が終わり、その安心感もありスタッ

フが非常に落ち着いて対応していました。利用者にはテーブルの下に入っただけ、皆さん落ち着いていました。常日頃から、地震の時にはテーブルの下に入り、必要などときには縁側の窓から外へ出るという意識を利用者とも共有していましたので、スタッフを含め落ち着いた対応ができたと思います。

【委員長】 それでは、続いて花時計をお願いします。

【花時計】 22年度は、90歳のご高齢の方より講座を開講したいというお申し出がありましたので、月1回講座を実施しました。受講される方々も同年代の方が多く、講座で作った作品は22年度のコミセンの文化祭に展示し、多くの方に見ていただきました。講座受講者も大変励みになったようです。

在宅介護支援センターとの情報交換会は、22年度は2回実施しました。1回目は境南町の高齢者の状況や、その前年度花時計を運営した中で気づいた点等について情報交換をしました。2回目は地域連携医療についてお話をいただき、勉強させていただきました。この情報交換会を実施するまで、スタッフは皆在宅介護支援センター職員のお顔が分からない状況でしたが、実施したことにより在宅介護支援センターの存在が身近に感じられる良い機会となりました。

花時計の利用者の方々から、「花時計は明るくて雰囲気良くて、居心地が良い」というお話をいただくので、スタッフ一同それを励みとしており、また、花時計も地域の居場所として根付いてきたと実感しています。

【委員】 昼食のみ利用される方はどのくらいいらっしゃいますか。また、イベントやプログラムを目的とせず、ふらっと来られる方もいらっしゃるかと以前お伺いしましたが、そのような方はどのくらいいらっしゃるのでしょうか。

【花時計】 昼食のみ利用される方は、1週間に2、3人いらっしゃいます。講座等に参加せず、お茶だけ飲みに来られる方や散歩途中で寄って下さる方として、高齢者に限らず地域の方がいらっしゃるようになりました。特に決まった人ということではなく、本当に通りすがりでいらっしゃる場合がほとんどです。

【委員】 花時計は高齢者と乳幼児親子を受け入れていますので、3月の震災時は大変だったかと思いますが、いかがでしたでしょうか。また、防災訓練等は普段からされていますでしょうか。

【花時計】 マニュアルは作成しておりませんが、2ヶ月に1回ずつ地震・火災に関して、利用者がお帰りになった後スタッフのみで防災訓練を行っています。震災当日は訓練を行ってきたことが役に立ち、利用者は机の下に入られ、スタッフも冷静に対応していました。

【副委員長】 おしゃべりサロンはどのような形で行われていますか。

【花時計】 毎月第一木曜日は地域社協の2丁目の方が中心となり、2丁目の高齢者をお誘いの上、折り紙等テーマを持って時間を過ごされています。2～4週はイベントを組んでいることが多いので、イベントがない場合、昼食後そのままずっとおしゃべりをして時間を過ごされています。平成23年度は2丁目だけではなく、境南地域社協全体として昼食の枠を5名程確保して欲しいという要望があり、独居高齢者をお連れして食事した後、だんだん体操を行い、その後それぞれの地域社協の方にお任せするという流れになりました。

【副委員長】 おしゃべりサロンは人気がありますか。

【花時計】 お一人暮らしの方がおられますと、何かあった時は花時計が拠りどころになると参加される方はおっしゃっていますので、そのような効果はあると思います。だからといって、おしゃべりサロンに参加されている方々が、講座に参加するかというと、それは様々です。

【委員長】 人件費はすべて時間給で支給しているのですか。

【花時計】 スタッフ全員出勤した時間に応じて、時給という形で支給しています。

【委員長】 それでは、続いてくるみの木をお願いします。

【くるみの木】 くるみの木も開設から2年半が経過し、最初の1年はあたふたと運営し、次の1年は計画した事業を何とか運営し、次の1年で前年実施したことを反省しながら充実させていこうという思いで運営してきました。

プログラムへの参加者は年々増えており、22年度は人気のあるプログラムを2部制にする工夫を試みました。

コミュニティガーデンについて、2年が経過し大変綺麗なお庭へと発展してきました。ハーブを利用して食事を作ったり、花束をお売したり等、1つのコミュニティの場として楽しまれていると感じています。

1年目から開始した介護家族の広場は徐々に広がりを見せ、常に決まった方が参加するのではなく、様々な方が参加されており、大変良い会になってきました。

中央福祉の会と独居老人の会である「りんどうの会」へは輪番でスタッフが伺ってコミュニケーションをとっています。

保育園との交流について、以前よりお誕生会に参加して歌を披露しておりますが、今後より一層の交流が図れないかと保育園と調整する予定でいます。

レスパイト事業について、土曜日のみとしていましたが、必要に応じて土曜日以外もプログラム参加者のお子様を受け入れることにしました。

3月の震災発生時は、4、5名が手芸をされていましたが、皆さん落ち着いて机の下に入る等して対応されました。その後、建物の安全性について業者に依頼し、再度安全であることを確認しましたが、防災訓練等は今後より実施していく必要があると感じました。

【副委員長】 在宅介護支援センター等との情報交換会実施日が年度末に連続して行われていますが、このことについて説明願います。

【くるみの木】 在宅介護支援センター等との情報交換は常日頃から必要と感じておりますが、若い利用者が多いため、情報を共有するケースが少ないことがあります。また、在宅介護支援センターとの日程調整がうまく進まなかったことも要因です。くるみの木の場合、高齢者総合センター在宅介護支援センターと吉祥寺本町在宅介護支援センター両方のエリアの利用者がいますので、両方と情報交換会を実施しようということで行いました。情報交換会は、若いスタッフが多いため、在宅介護支援センターを理解していない者が多かったこともあり、事例検討だけではなくスタッフの研修にもなり大変良い機会となりました。

【委員長】 情報交換会について、23年度の計画には反映されているのですか。

【くるみの木】 23年度は上半期1回、下半期1回を定例的に実施し、後は必要に応じて実施する予定です。開設当初よりも利用者年齢が上がってきており、これまでは SOS ノートという心配な利用者に関する情報を日報以外に記載するノートを作成しておりましたが、施設として個人の援助計画を立てていくということで、スタッフ全員で情報を共有するために個人ファイルを作成しています。それを基に在宅介護支援センターとの事例検討会を実施する予定です。また、在宅介護支援センター職員がくるみの木へ出張して、相談できるコーナーを作ることが今年度の課題です。

【委員】 武蔵野赤十字保育園との交流がかなり増えたと感じています。また、ケーブルテレビの取材を受けたということですが、テンミリオンハウスの PR となるような取材内容だったのでしょうか。

【くるみの木】 テンミリオンハウス全体の話に加え、くるみの木を紹介いただいていますので、くるみの木の PR として来訪された方にお見せしています。

【委員】 テンミリオンハウスのない地域では、テンミリオンハウスの認知度は本当に低いと感じています。くるみの木の場合、吉祥寺本町では4丁目の一

部が利用されていますが、1～3丁目や御殿山では認知度が低いので、今後更にPRしていただきたいと思います。

【くるみの木】 月見路やくるみの木はムーバスの停留所が近くにあるので、ムーバス内でアナウンスしていただくよう、市にも確認した上で実施できればと考えています。

保育園との交流について、お誕生日会の他に、日常的な交流として0～3歳のお子さんが公園等へ遊びに行く前、くるみの木に寄って庭で遊んでいくことが多くあります。その際、テラスに上ってきて高齢者がプログラムを実施している様子を伺うなど、高齢者との自然な関わりができています。

【委員】 スタッフの数が他の施設に比べ倍以上多いですが、このことについてご説明願います。

【くるみの木】 運営団体のワーカーズどんぐりのスタッフは25名程おり、ケアをしている団体ですが、その中の全員がくるみの木に関わるということで始めました。しかし中にはケアだけを行っているスタッフもいますので、現在くるみの木に関わっているスタッフは20名となっています。

【委員】 防災訓練等の危機管理についてご説明願います。

【くるみの木】 一昨年消防署と実施しましたが、昨年は実施していません。これからもう一度しっかり行うよう体制を整えたいと思います。

【委員】 昼食のみ利用される方は何名程いらっしゃいますか。また、くるみナイトのその後の動きについてご説明願います。

【くるみの木】 昼食のみ利用される方は曜日によって数も変わりますが、最近食事だけの利用者が増えてきました。1日平均で3、4名いらっしゃるかと思います。現状、昼食のみ利用される方で、初めてくるみの木に来た方は、大抵の人がプログラム利用者になっていきます。昼食のみ利用される方は利用者登録をこれまでできていませんが、昼食時の誤嚥による事故等があった場合の連絡先等を知る必要もあると考え、昼食のみの利用者につきましても、今後利用者登録を行っていこうと考えています。よって今後より純粋な昼食のみの利用者数が出るようになると思います。

くるみナイトにつきましても、大きな進展はなく、現在計画中です。

【副委員長】 その他利用者が多いという特徴がありますが、これは地域のコミュニケーションの場という形が現れている証拠だと思います。今後、この方向性を進めていくのか、それとも本来のテンミリオンハウスの対象者である自己通所可能な高齢者の受入という方向性を進めていくのかお伺いしたいと思います。

ます。

【くるみの木】 65歳以上の方が中心と考えていますが、テンミリオンハウスを地域に知っていただくため、また地域の方にサポーターになっていただくためにも、地域の若い方の参加や市民への周知を含めた、地域へ広げる活動も行っていきたいと思います。

【委員長】 それでは、第2グループ最後になりますが、あおばをお願いします。

【あおば】 22年度の実績について、一時保育事業では3年ごとに登録更新を行っており、21年度までの3年間で約980名の登録がありましたが、22年度では既に450名程の利用者登録があり、年々増加傾向にあります。

自由来所型のひろば事業では、お母様同士の口コミでの利用者が増加しています。今回の震災により、建物の耐震検査を行ったため、一時的に約2週間休館しましたが、安全確認がされ開館した後は、乳幼児を抱えるお母様につきましては、余震で不安な毎日を家で過ごすより、あおばでの安全・安心の場を求める方が以前よりも増加し、賑わいを見せています。休館の間は、「早く開館して欲しい」というお声を数件いただきました。

子育て支援講座の中では、ここ数年シリーズで行っていたわらべ歌や親子遊びを22年度より無料にしたため、参加人数が増加しました。大変好評であり、また、保育付きの講座への参加も好評となっており、お子様と離れたひと時をくつろぎ楽しく過ごしたいというお母様達が増えていると感じました。

22年度も夏ボランティアの受入をしましたが、前年度に比べ増加傾向にあり、ひろばに遊びに来られるお母様達も、お子様がボランティアの学生達とふれ合える機会を楽しみにされており、世代間交流が実現していると感じています。

【委員】 ボランティアの数が10月より報告されていませんが、このことについて説明願います。

【あおば】 あおばの場合のボランティアは、市民社協で行っている夏ボランティアの人数がかなり多いです。学生のボランティアであるため、夏休み等の長期休暇の際に来ていただいています。10月以降ボランティアの報告がないのは、学生ボランティアも勉強や実習が忙しくなる時期のためです。なお、ボランティアは学生の方に限定しておらず、学生以外の方も参加されていますが、そのようなボランティアも10月以降の参加はなかったということです。

【委員】 あひる事業は週に何回実施しているのですか。

【あおば】 あひる事業は、全ての開館日において10時～16時の間で実施し

ています。

【副委員長】 延べ利用者数が 6,000 人を越えたということですが、あおばでこれ以上の利用者を受け入れるキャパシティについて、どのように感じていますか。

【あおば】 以前よりお願いしておりますが、第 2、第 3、第 4 のこどもテンミリオンハウスを開設して欲しいと願っています。あおばは武蔵野市の端にありますので、反対側にお住まいの方は利用できていません。可能であれば、高齢者向けテンミリオンハウスと同様に各地域にあって欲しいと思います。そうすることで、乳幼児親子の方達は安心・安全で暮らしていけると常に思っています。

【委員】 あおばの場合小さなお子様がおりますが、3月の震災当日の様子はいかがでしたか。また、日々の危機管理や防災訓練等についてお聞かせください。

【あおば】 あおばでは月 1 回避難訓練、年 1 回消防署の方に来ていただいて消防訓練を実施しています。3月の震災につきましては、2月 16日に消防署の方に来ていただき訓練を実施したばかりでしたので、乳幼児親子の利用者、預かりのお子様が大勢いた中でもスタッフはスムーズに対応し、怪我もなく非難することができました。また、保育課から北町保育園に連絡をとっていただき、あおば休館時に北町保育園で一問お借りして事業を実施することができました。

【委員】 あおばでは保育園等との情報交換会を行っていますか。

【あおば】 情報交換会という特別なことはしていませんが、東京都の認可外保育所になっておりますので、東京都の研修等は受けています。また、北町保育園とは交流をしてくれています。さらには相談事業等で子ども家庭支援センターの担当者達と情報を共有しています。

【委員】 利用料収入で 52,900 円、事業収入で保育受託料として 5,163,072 円とありますが、ひまわり事業が保育受託料であり、あひる事業の有料の日が利用料ということかと思いますが、この有料日のあひる事業の利用者は何名程いましたか。この日の方が人数は少ないので、ゆっくり相談できるのだろうと考えています。

【あおば】 資料として人数を用意しておりませんのではっきりした数字は分かりませんが、ゆっくり相談されたい方が利用されています。

【委員】 あおばには AED が設置されていますが、子どもへの対応は難しく

ないでしょうか。

【あおば】 今は子ども用の AED がありますので、特に問題はありません。

【委員】 あおばだけではなく、高齢者を受け入れている施設も含め、AED を設置して備えておくべきだと思います。

【委員長】 はあと事業について、現在はどのような相談内容が多いのでしょうか。

【あおば】 お母様がお子様を初めて持って、精一杯になってしまうという内容が多いです。

【委員長】 はあと事業も既に何年か実施していることですが、統計的なデータ収集等はしていますか。

【あおば】 いいえ、していません。

【委員長】 ありがとうございます。以上を持ちまして、実績報告のヒアリングを終了いたします。

(3) 平成 23 年度運営団体公募について

【事務局】 資料 2 に基づいて説明。

【委員長】 事務局の説明について何か質問やご意見のある方はどうぞ。

【副委員長】 事業推進力の評価方法について、法人格を持った団体については決算書等を添付するようありますが、任意団体についても会則等を一律に求めても良いのではないのでしょうか。また、事業計画書について、採択基準項目に基づいた書き方を求めた方が良いと思います。例えば、地域のニーズの捉え方や地域の活性化に寄与することへの考え方、サービス提供の柔軟性についての考え方、リスクマネジメントについての考え方などのように項目を出してみたいかがでしょうか。

【事務局】 任意団体についての提出資料について、会則は作成いただくこととなりますが、事業提案の段階で決算書等を添付いただく場合、実績のある任意団体であれば決算書等を持っているだろうという解釈でよろしいでしょうか。

【副委員長】 例えば、市民社協の助成金の場合、会則や決算書を提出いただいています。会則がないのであれば、会則のない団体はあり得ないので、補助金を受け取る団体とはすぐわかないため作成するよう促すことになると思います。補助金を交付して施設運営を委ねる以上、団体の責任の所在や構成、役員体制等が分かる資料を提出いただかないと、その団体を信用できません。

【事務局】 それでは、ご提案いただいた団体の中身が分かる資料、例えば事業報告書や決算書、会則や定款等を提出いただくようにいたします。

また、事業計画書についてですが、採択基準に沿った項目内容に変更することは必要かと思いますので、雛形を事務局で作成し、委員の皆様へ FAX 等で確認をいただく形でいかがでしょうか。

【副委員長】 事業提案書を提出する側の負担にならない程度で、変更をご検討いただきたいと思います。

【委員長】 公募を実施し、結果的にどの団体からも事業提案がなかった場合の対応について考えておく必要があるかと思いますが、実際に応募団体が確定する時期はいつごろでしょうか。

【事務局】 市民社協への事前相談期日がございますので、9月21日には応募団体の数が判明すると思えます。

【副委員長】 今回の公募について、応募条件を一律に同じものとしておりますが、関三倶楽部が実施しているショートステイは武蔵野市としても大切な資源であると思いますので、関三倶楽部については現在の事業内容の継続を示唆するのか、それともやはり一律の応募条件として、事業提案の内容で判断する考えなのでしょうか。

【事務局】 公募のコンセプトについて、市から具体的に示してしまうよりは、広く幅を持たせた条件で行った方が良く考えております。確かに関三倶楽部については、他のテンミリオンハウス同様にミニデイサービスを行うには条件が悪いので、提案するには難しい可能性が高いと思えます。

【副委員長】 例えば、関三倶楽部に関してサロンやカフェのような提案が出された場合、その提案内容が採択される場合もあるのでしょうか。

【事務局】 提案内容によって可能性はあると思えます。

【委員長】 地域の概念について、行っている事業で考えていけば良いのではないのでしょうか。自己通所可能なミニデイサービスであればその周辺地域になりますし、ショートステイとなればより広い地域が対象になります。

【委員】 地域ニーズについてはどこで把握するのでしょうか。市民に対するアンケート内容等を応募団体に提供するのでしょうか。

【事務局】 市で行った高齢者実態調査の報告書を、事前相談の段階でお配りすることはできると思えます。

【委員】 また、現在策定が行われている健康福祉総合計画の内容にも沿っていかなければならないということでしょうか。

【事務局】 テンミリオンハウスを推進したいと考えていますので、その趣旨を理解した上で事業運営を行うという前提はあります。

【副委員長】 基本的には応募してきた団体自身で調べるということになるのと思いますがいかがでしょうか。

【事務局】 基本的にこちらから提供するという考えはありません。

【委員長】 他にご意見がなければ、この原案を一度整理いただいた上で実施していくということによろしいでしょうか。 → 委員了承。

【委員長】 それでは、これを持ちまして平成 23 年度第 1 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会を終了いたします。

5 閉会

以上